

〈実践報告〉

## 淑徳大学歴史学科3年生が設定した 「総合的な学習の時間」の「探究課題」

土 井 進

### 要 約

教職必修科目「総合的な学習の時間の指導法」が、本学部において開設されて2年目を迎えた。今年度の特色として、対面授業により、総合的な学習の要である「探究課題」の設定、年間指導計画と単元の指導計画の策定において、個別指導を実施したことがあげられる。また、「探究課題」の内容が一目瞭然となるように、スケッチを1点加えたことが大きな特色となっている。「探究課題」名一覧から分かるように、歴史学科生の強みを発揮した歴史に関する課題や教職教養に関わる課題が多く設定されているところに本学部ならではの特色がある。19人の「総合的な探究(学習)の時間」の授業づくりは、それぞれが個性的であり、創造性と意欲に満ちた取り組みであった。学生はレポートを作成し、発表会を終えた後、200字原稿用紙に「総合学習の授業づくりから学んだこと」を記述した。この内容を「総合的な学習の時間の指導法」の6つの到達目標<sup>(1)</sup>に即して分類し、学生の学びの実態を明らかにした。

### キーワード

教職必修科目「総合的な学習の時間の指導法」 探究課題 スケッチ  
総合的な探究(学習)の時間

### 1. 学生が設定した「探究課題」一覧

「総合的な(探究)学習の時間」(小中学校の「総合的な学習の時間」、高等学校の「総合的な探究の時間」という名称を合わせて、本稿では「総合的な探究(学習)の時間」と表記する)の特質は、学習方法が総合的であるところにある。総合的で、しかも探究的な学び方を実現するためには、生徒が実生活の中から問いを見つけ、それを「探究課題」として位置づける必要がある。この過程において教師の指導が必要に応じて加えられなければならない。生徒は「探究課題」を解決する過程において、「探究課題」の解決に必要な様々な知識及び技能を収集して身に付け、「探究課題」に関わる概念を形成し、探究的な学びを展開していくことになる。このような探究的な学びは、高等学校学習指導要領では次のように説明されている。

1

実社会や実生活と自己との関りから問いを見だし、自分で課題を立て、情報を集め、整理・分析して、まとめ・表現することができるようにする。<sup>(2)</sup>

生徒が発見した問いを「探究課題」として位置づけるためには、学習指導要領の目標に叶うものであること、また、各学校の教育目標に叶うものであることが不可欠である。このことを弁えた上で、学生には中学生や高校生の立場になって「探究課題」を構想するのではなく、学生自身が今学んでいる実社会や実生活の中から「探究課題」を設定するように指導した。その結果、学生が大学3年生としての実生活の中から把握した課題は、卒業論文のテーマに関するものや、来年受験する教員採用試験の教職教養問題に関するものが多くを占めた。このような指導をしたのは、学生時代に自分が一番関心を抱いていることを「探究課題」として設定した経験が、やがて教師となったときに、中学生や高校生が一番関心を抱いていることを「探究課題」として引き出す原動力となって生きるに違いないと考えたからである。学生が設定した「探究課題」は、表1.の通りであった。

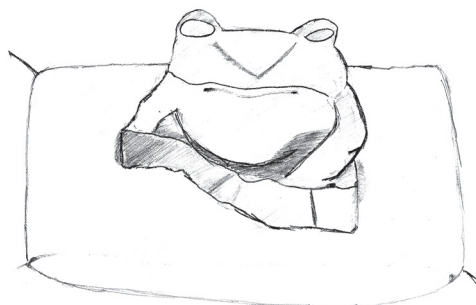
表1. 学生が設定した「探究課題」一覧

番号	「探究課題」の分類	学生が設定した「探究課題」	学校種
1.	日本史に関する課題	○江戸時代の行商―振売について―	高等学校
2.		○松尾芭蕉の「旅」	中学校
3.		○祭りとはなにか	中学校
4.		○漫画の起源と戦争	高等学校
5.		○三・一独立運動―日韓の歴史について考える―	中学校
6.	世界史に関する課題	○書道と中国の書家 王羲之・顔真卿の考え	中学校
7.		○世界各地の紛争について	高等学校
8.	教職教養に関する課題	○教育の理想―子供の理想像から考える―	中学校
9.		○女性教育について考える	高等学校
10.		○定型発達の子供と自閉症の子供の関り	中学校
11.		○明治時代の教育	中学校
12.		○いじめとカースト制	中学校
13.		○いじめをなくすメンタルトレーニング	中学校
14.		○寺子屋教育(江戸時代)	中学校
15.		○精神的・身体的苦痛をもたらすもの	中学校
16.		○自分とみんなのいいところを探してみよう	高等学校
17.		○戦時下の学校教育	高等学校
18.	地域の特色に関する課題	○千葉県における特産品―落花生について―	高等学校
19.		○埼玉県熊谷市と地球温暖化について	高等学校

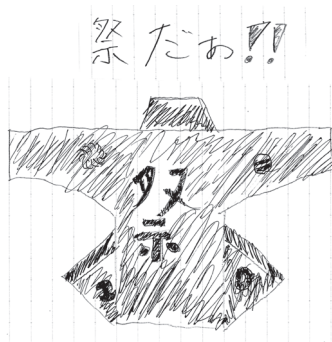
## 2. 学生がスケッチで表現した「探究課題」



① 江戸時代の行商一振売一



② 松尾芭蕉遺愛の石の蛙



③ 祭りだあ!!



④ 三・一独立運動の様子を描いたレリーフ



⑤ 教育の理想、二宮尊徳



⑥ 自閉症の子と一緒に遊ぶ3人の子ども



⑦ スクール・カースト

フランスの旧制度(アンシャン=レージュム)のもとで  
苦しい生活を強いられた第三身分



⑧ 戦時下の学校教育

御真影納入袋

### 3. 小中高校において体験した「総合的な学習の時間」の内容

学生が、初めて「総合的な探究(学習)の時間」の授業づくりに取り組むに当たって、自らの「総合的な学習の時間」の体験を振り返ることが重要であると考え、レポートに「私が小中高校で体験した「総合的な学習の時間」」についての記入欄を設けた。その内容は表2.の通りであった。

「総合的な探究(学習)の時間」の授業をどのように構想すればよいか、のヒントを学生が得るためには、自らの体験に基づくとともに、全国の小学校、中学校、高等学校、そして特別支援学校で実際に行われている授業の実践例から学ぶのが効果的である。そこで10校の事例を編集したテキスト<sup>(3)</sup>を活用し、その実践校ではどのようにして「探究課題」が設定されているか、児童生徒にどのような成長がみられたか、に焦点を当てて考察した。

表2. 小中高校で体験した「総合的な学習の時間」

小学校	中学校	高等学校
<ul style="list-style-type: none"> <li>○ラディシュ・落花生の栽培、試食</li> <li>○バケツ稲の栽培</li> <li>○ゴーヤの栽培体験</li> <li>○学校の小さな水田で、学年単位で稲を育て、稲刈りを体験</li> <li>○米粉から草加せんべいを作る</li> <li>○ゴミ処理場見学による環境問題</li> <li>○ゴミ処理場を見学し環境問題について考える</li> <li>○小学校の畑でサツマイモ栽培、バケツ稲</li> <li>○竹とんぼ・あやとり・けん玉などの昔遊びを地域の方から学んだ</li> <li>○群馬県太田市の特産品であるやまと芋の栽培・出荷について農家の方から話を聞く</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○保育園へ3日間の職業体験</li> <li>○地元の特産品の広告の出し方</li> <li>○スポーツ用品店での1週間の職場体験</li> <li>○スーパーでの3日間の職場体験</li> <li>○学校周辺の公園・史跡でスケッチをし、グループ単位で発表会</li> <li>○戦争体験者の話を聞き調べ学習</li> <li>○職業体験、働いている人との交流</li> <li>○保育園で3日間の職業体験</li> <li>○金沢スポーツセンターでの職業体験</li> <li>○栃木県の特産品イチゴとかんぴょうについての調べ学習</li> <li>○地域活性化につながる企画をグループで考え、実行する</li> <li>○身近な会社での職業体験</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○大学進学や就職の説明会・自己分析</li> <li>○大学教授や卒業生の講話を聴く</li> <li>○いじめについて話し合う授業問題の本質を見極める個人課題研究</li> <li>○「キャリアを知る」時間で外部講師の話聞く</li> <li>○茶道 ―お茶のたて方と飲み方の作法―</li> <li>○華道 ―お花の生け方、花にあった切り方、家でのお手入れの仕方―</li> </ul>
<p>○何か題材に取り組んだという記憶がない。自習や行事の話し合いの時間に使われていたように思う。行事が近かった場合、班決めやスケジュール確認をしていた。行事が無い時期は、自分のやりたい教科の自習を行っていた。</p> <p>○学校行事に対しての準備が、1年を通して絶え間なく行われていた。入学式・卒業式の練習、文化祭・予餞会・合唱祭・体育祭・郊外学習・修学旅行・林間学校・今後の進路・外部講師の講演などで「総合的な学習の時間」のほとんどの時間を使っていたように思う。先生たちが「総合的な学習の時間」の授業をする時間的余裕が難しかったのではないかと今になって考える。</p>		



#### 4. 総合学習の授業づくりによって、学生は何を学んだか

「総合的な学習の時間の指導法」のシラバスは、8時間を全国の実践事例の学びに充て、次の5時間を図書館で「探究課題」の調べ学習と年間指導計画の作成に充て、最後の2時間を1人5分間の発表学習と2分間の相互評価に充てた。そして、全員の発表が終わったところで、授業アンケートと「総合学習の授業づくりから学んだこと」を200字原稿に記述して、まとめとした。

学生が教職必修科目「総合的な学習の時間の指導法」において修得しなければならない到達目標が6つ示されている。学生が「総合学習の授業づくりから学んだこと」<sup>(4)</sup>を6つの到達目標の観点から分類した。その結果は次の通りであった。

##### 到達目標1.「総合的な探究(学習)の時間」の意義と教育課程において果たす役割

学生①：授業づくりをする前は、総合は学びの時間というより、息抜きの時間と考えていた。行事や席替えなど、毎回違うことを行っており、学習とは程遠かった。しかし、私は「定型発達の子どもと自閉症の子どもの関り」という探究課題を設定して、総合の授業づくりをしてみて、生徒の資質能力を育成する上で重要な学びであると感じた。なぜなら教科横断的な学びによって、一つの教科だけでは学びきれない範囲まで学ぶことが出来るからだ。このことから総合学習は、生徒や学校、地域などの実情に合わせ、生徒の資質能力の育成を図る必要があると学んだ。

学生②：授業づくりを通して、総合学習の意義や教育課程において果たす役割の大切さを学んだ。総合学習の時間は、席替えや行事前の説明会に使われることが多かった。しかし、本来は教科横断的総合的に物事を学ぶことを通して、自ら学び、課題を発見し、それを解決する資質能力を養う教科であり、そのための時間でなければならない。私は「漫画の起源と戦争」を探究課題とする「総合的な学習の時間」の年間指導計画・単元の指導計画の作成に取り組んだ。このことによって、なぜ席替えの時間にしてはいけないのか、生徒が主体的に動けるようになるためには、どのような課題を設定し、どのように展開していけばよいのか、を学んだ。他教科と関連づけることの難しさ、「探究課題」を通して生徒に育成する資質能力を設定することは、とても難しかった。しかし、とても有意義な15回の授業だった。

##### 到達目標2.「総合的な探究(学習)の時間」の目標、各学校の目標及び内容を定める際の留意点

学生①：「自由な時間」と思っていた「総合的な学習の時間」だが、今回「祭りとはなにか」の授業づくりを行ってみて考えが変わった。総合学習の時間は確かに「探究課題」は自由であるが、生徒に必要とされる資質能力を獲得させるためには、学校・地域・環境との連携や教科横断的学習や体験学習などの多くの留意点があることを学んだ。そして、何よりも生徒のことを考える必要がある。つまり、総合的な学習は生徒・学校・地域に寄り添い、教科横断的な学習によって生徒に必要な資質能力を育む非常に重要な授業であることが分かった。

学生②：小中の「総合的な学習の時間」に様々な体験をしたが、それらの背景に今回学んだ「総合的な探究の時間」の意義が裏づけられていることに気づいた。「総合的な探究の時間」の教育課程における役割や年間指導計画、単元の指導計画は、生徒の資質能力の育成に非常に重要であることを再確認した。また、探究的な学びという生徒主体の活動を展開することの重要性を学ぶことができた。さらに、他教科との関連性を図ることも重要であることが分かった。

学生③：自分の手で授業設計に取り組んでみて、学校の先生の凄さを学ぶことができた。私は、「教育の

理想—子供の理想像から考える—」を探究課題として授業づくりに取り掛かったが、この「探究課題」で生徒が学ぶ意義はどこにあるか、授業の構成を試行錯誤し、資料を収集するだけでも、かなりの時間がかかってしまった。学校の先生たちはこの作業を総合学習だけに限らず、担当教科や道徳科でも行っていることを考えると、これまで私の担任をしてくださっていた先生たちが、どれほどすごい存在であったか、ということに感謝し、教職の使命の大きいことを深く学ぶことが出来た。

### 到達目標3. 各教科等との関連性を図りながら、年間指導計画を作成

学生①：「江戸時代の行商—振売について—」の総合学習の授業づくりを通して学んだことは、他教科との関連性を図ることの重要性である。1つの教科に絞らず、複数の教科と関連させた学習を行うことは、総合的な知識や考えを生み出すことにつながると考える。そして、探究的な見方・考え方を取り入れることができ、人間や社会について深く考えることができるようになると思う。高校生の資質能力の育成に果たす「総合的な探究の時間」の意義は大きいと考える。

学生②：授業づくりから一番学んだことは、「探究課題」の設定・年間指導計画の作成・単元計画の作成である。これらのことは教員になるなら関係なく、教育実習の際に求められることだと思うので、重要だと感じた。また、これらのことを作成する中で一番考えたことは、生徒にとって学ぶ意義のあるものか、という問いかけであった。言い換えると教師の自己満足で総合的な学習の授業をしてはならないということである。

学生③：授業づくりから学んだことは、様々あるがその中でも、年間指導計画や単元の指導計画の立案について学ぶことができたことが、最も有益であった。指導計画というものを今回の授業づくりで初めて学び、授業の全体像を考えて年間指導計画を策定する必要がある、一部分の内容に片寄らないように工夫しなければ、生徒にとって意味のある学びにはならないと感じた。もう一つの有益な学びは、生徒が興味を持ち、主体的で探究的な学習ができる「探究課題」を見つける力量が、少し身についたのではないかと考えている。

### 到達目標4. 主体的・対話的で深い学びを実現する単元計画を作成

学生①：テーマ選びの難しさを学んだ。教師が興味を持っているテーマが、果たして生徒も関心を持って取り組んでくれるものなのか。このテーマから生徒がどのように学び、どのような資質能力を育成することができるのか。このように教師は多くのことを考えながら、「探究課題」を設定しなければならぬことを理解することができた。

学生②：実際に授業づくりをしてみて、率直に難しいと感じた。各教科を横断的総合的に関連させながら、生徒が主体的に活動できる授業をつくることが求められているからだ。私は辛うじて授業づくりをすることが出来たが、反省する点が多い。今後、総合学習の授業づくりをする際は、今回の授業づくりで得た経験を下地に、さらに良い授業づくりをめざして努力したい。

6

### 到達目標5. 探究的な学習の過程を実現するための具体的な手立て

学生①：「いじめとカースト制」という「探究課題」を設定し、教科横断的に授業を進めることに苦労した。生徒と授業者にとっても意欲的に取り組める「探究課題」とは何か、について再考する機会となった。また、生徒が主体的に活動するための授業展開についても、グループ活動や発表会を計画し、協力して実行させることの意義とその重要性についても理解できた。私が設定し

た課題については、継続して探究していきたいと思う。

学生②：私が今まで考えていたような「総合的な学習の時間」は、全くこの授業の意義を理解できていないものであった。しかし、「三・一独立運動―日韓の歴史について考える―」を探究課題として、生徒主体の授業づくりを考えていくうちに、総合学習の本質を感じ取ることができたように考える。他教科では現実的に難しい探究的な学習を推し進めていくような授業を立案し、熟考を重ね、生徒の資質能力を育成するところに「総合的な学習の時間」の重要な役割があると考ええる。

#### 到達目標6. 生徒の学習状況に関する評価の方法

学生①：授業づくりを通して、生徒が興味・関心を持ちやすく、主体的に学べる授業づくりの必要性について学んだ。「総合的な探究の時間」は、グループワークや調べ学習などを主体的に行える一方で、生徒によっては何もせず過ごす人も出てしまうため、興味・関心を引き出し、生徒が探究的に課題に取り組めるように、授業の展開を工夫する必要がある。この問題を解決するためには、教師と生徒の信頼関係を築くことが重要であると考ええる。

学生②：私は、どのように展開すれば生徒の力を育成することができるのか。生徒の個性を引き出すにはどのように工夫すればよいのか、について考察することが難しかった。とりわけ生徒の学びをどのように評価するか、評価方法を決めることが難しいと思った。

### 5. まとめ

- (1) 昨年度はオンライン授業であったが、今年度は対面授業であったため学生がペア学習で事前学習の200字原稿に一言コメントを記入し、それに授業者もコメントも加えることができ、学生の学習への動機づけを強化することができた。
- (2) 「探究課題」を学生が主体的に設定したことによって、図書館での調べ学習に集中して取り組むことができた。また、レポートを小冊子にまとめ、一人5分間の発表学習と2分間の相互評価を実施したことによって、真剣な学びが展開された。
- (3) 教職必修科目「総合的な学習の時間の指導法」のコアカリキュラムとして提示された6つの到達目標に対して、学生たちは次のような学修成果をあげることができた。
  1. 総合の時間に「行事や席替えなど」を経験してきた学生は、「総合は学びの時間というより、息抜きの時間と考えていた」が、「なぜ席替えの時間にしてはいけないのか、生徒が主体的に動けるようになるためには、どのような課題を設定し、どのように展開していけばよいのか」を学び、「総合的な探究(学習)の時間」の意義と教育課程において果たす役割について再認識している。
  2. 学生は授業づくりを行ってみて「考えが変わった」という。確かに「探究課題」の設定は自由であるが、「生徒に必要とされる資質能力を獲得させるためには、学校・家庭・地域との連携や教科横断的学習や体験学習などの多くの留意点」を踏まえて目標を達成しなければならないことを学んだという。また、「何よりも生徒のことを考える必要がある。つまり、総合的な学習は生徒・学校・地域に寄り添い、教科横断的な学習によって生徒に必要な資質能力を育む非常に重要な授業であることが分かった」、と述べている。
  3. 学生は総合学習において「複数の教科と関連させた学習を行うことは、総合的な知識や考えを

生み出すことにつながると考える。そして、探究的な見方・考え方を取り入れることができ、人間や社会について深く考えることができるようになると思う」と述べ、教科横断的総合的に学ぶ意義について理解を深めている。また、「年間指導計画や単元の指導計画の立案について学ぶことができたことが、最も有益であった。指導計画というものを今回の授業づくりで初めて学び、授業の全体像を考えて年間指導計画を策定する必要」があることを深く理解している。

4. 学生は、主体的・対話的で深い学びを実現する単元計画を作成することについて、「率直に難しいと感じた。各教科を横断的総合的に関連させながら、生徒が主体的に活動できる授業をつくること」は容易なことではない。その難しさに直面したこと自体が有意義な学びであったといえよう。
  5. 学生は、これまでに学んできた総合学習は、「全くこの授業の意義を理解できていないものであった」ことに気付いたという。「授業づくりの作業を進めていくうちに、総合学習の本質を感じ取ることができたと考えている。すなわち、他教科では現実的に難しい探究的な学習を推し進めていくような授業を立案し、熟考を重ね、生徒の資質能力の育成を図るところに「総合的な学習の時間」の重要な役割がある」ことが分かったという。
  6. 学生は、総合学習には「グループワークや調べ学習などを主体的に行える一方で、生徒によっては何もせず過ごす人も出てしまうため、興味・関心を引き出し、生徒が探究的に課題に取り組めるように、授業の展開を工夫する必要がある」と述べ、何もしないで遊びの時間にしてしまう生徒が出ないようにするには、「教師と生徒の信頼関係を築くことが重要である」と考える」と述べ、この問題の核心を突いている。
- (4) 「探究課題」の内容を象徴するような実物や写真をもとにして学生が描いたスケッチは、学びの深さを表すものとなって有意義であった。
- (5) 授業づくりが困難な「総合的な学習の時間」を、他教科や道徳科などと一緒に担当している先生方への深い感謝の念を吐露している学生がいることに、感動を覚えた。

## 注

- (1) 横須賀薫監修(2018)『概説 教職課程コアカリキュラム』伏木久始「総合的な学習の時間の指導法」pp.93-106、ジダイ社
- (2) 『高等学校学習指導要領(平成30年告示)』第4章 総合的な探究の時間、p.474、文部科学省
- (3) 土井進・塩原孝茂編著(2019)『実践から学ぶ総合的な学習の時間の指導と授業づくり』ジダイ社
- (4) 受講学生の文章とスケッチは、学生の手記を引用した。